

## 作業部会における施設整備に関する検討結果報告

信濃美術館整備検討委員会作業部会  
作業部会長 金井 直

### 1 作業部会における検討事項

(1)立地条件を活かした整備、(2)既存施設との関係、(3)施設の配置、  
(4)施設の規模、(5)レストラン、ショップ等、(6)事業者選定方法

※上記事項の検討にあたり、「利用者の視点」、「管理・運営」、「コレクション」  
について意見交換を実施

### 2 作業部会メンバー

氏名	役職等
部会長 金井 直 ※	信州大学 文学部 人文学科 准教授
赤羽 直美 ※	一般社団法人 長野県建築士会 景観整備機構委員長
池田 謙司	長野市 都市整備部 公園緑地課長
佐野 千絵	東京文化財研究所 保存修復科学センター 副センター長
柳沢 秀行 ※	公益財団 大原美術館 学芸課長・プログラムコーディネーター
若麻績 敏隆	善光寺 白蓮坊 住職、画家
特別委員 橋本 光明 ※	長野県信濃美術館 館長

※ 美術館整備検討委員会兼務

### 3 開催状況

回数	開催日	協議内容
第1回	7月15日	・信濃美術館整備検討委員会における検討状況等 ・作業部会の検討事項の検討
第2回	9月9日	・整備方針についての意見交換 ・項目ごとの検討
第3回	10月14日	・項目ごとの検討（まとめ） ・整備検討委員会への報告について

### 4 意見交換内容及び検討結果

別添のとおり

## 作業部会における検討項目に関する意見

検討項目	主な意見
1 利用者の視点	<p>&lt;&lt;全体&gt;&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○美術館のコアとなる展示室、収蔵庫、研究スペースをしっかりと取り、必要な個別の施設を最大限取り入れる点が根本の議論である。</li> <li>○図書館は研究者に限らず、一般の人でも自由に利用できる空間にしてほしい。</li> </ul> <p>&lt;&lt;子ども・若者&gt;&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○人生の中で一番創造的なのは、保育園や幼稚園、小学校低学年まで。その年齢の子どもたちが楽しめるものであってほしい。</li> <li>○幼児と母親がいつでも立ち寄れて、いろいろな素材に触れて自由に遊べる場所が提供できるとよい。そのことが、大きくなっても立ち寄ることにつながる。</li> <li>○親子で公園に来て立ち寄る場所にしたい。入口周りに手洗い場があるとよい。</li> <li>○美術館内に子どもが自由に制作できる場所があるとよい。</li> <li>○さまざまなアクティビティを許す、質の高い空間を用意できるとよい。未就学児の隣で作家が制作するような出合いの場が美術館の役割。</li> </ul> <p>&lt;&lt;学芸員&gt;&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○県内学芸員の研修環境をくることが必要。</li> <li>○県内美術館の所蔵品情報リストを地区ブロックごとに持ち合うことにより、災害時の支援に役立つ。</li> </ul> <p>&lt;&lt;芸術家&gt;&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○県内の若手芸術家支援プログラム（next）との関連付けが必要。</li> <li>○アトリエは、作品制作に必要な機材や設備がなくても、広い部屋だけでも有効。</li> <li>○アトリエは、入口近くで子どもたちがワクワク感を共有できる施設にしたい。</li> <li>○アーティストを支援するなら、美術館単独ではなく、学校など別の要素との関係をつくらなければ難しい。</li> </ul> <p>&lt;&lt;研究者&gt;&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○アートを支える研究者養成に、県立美術館として一定の役割を果たすべき。</li> <li>○オープンな形で多角的に研究者が活用できるリサーチセンターが必要。</li> <li>○長野県出身の現代美術批評家の蔵書やリサーチセンターがあると、長野県と現代アートと向き合う意味がはっきりする。</li> </ul>
2 管理・運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>○常勤学芸員を十分に雇用し、施設が効果的に機能する環境を整えたい。</li> <li>○学芸員の充実が必要。今の体制では新美術館は回らない。</li> </ul>
3 建物・立地（施設整備）	<<検討結果：A3版資料参照>>
4 コレクション	<ul style="list-style-type: none"> <li>○普遍的なテーマをポリシーの中に掲げるべき。例えば、山岳文化。松澤宥、藤森照信、戸谷成雄をつなぐと、このエリアが示す山岳文化への際立ったアプローチが見えてくる。</li> <li>○辰野登恵子、戸谷成雄、眞坂雅文など、現代作家の収集も意識を。</li> <li>○菊池契月、プロレタリアアート周辺も大切なテーマになる。</li> <li>○長野県ゆかりの作家にはおもしろい人がたくさんいる。掘り下げが可能。</li> <li>○コレクションポリシーとして彫刻や工芸作品の再検討が必要である。</li> <li>○県内の他館が既にコレクションしているものは、無理に収集しない。</li> </ul>

## 作業部会における施設整備に関する検討結果

検討項目		作業部会検討結果	作業部会での主な意見
1	立地条件を活かした整備 ・善光寺、城山公園と一体化した文化的ゾーンのランドスケープ ・善光寺や周辺施設からの動線	○善光寺東庭園と城山公園が、連続的に一つの広場として機能する方向で検討することが望ましい。 ○周辺整備に関する関係機関と協議が必要な事項として、善光寺東庭園の整備（長野市、善光寺）、善光寺側交差点の改良、美術館周辺の公園整備、駐車場の一体整備（長野市、県警等）が挙げられる。（別紙1）	・善光寺から美術館への距離は近いが、歩道橋や途中の公園広場、駐車場など、幾重にも行きづらい状況がある。 ・入館者の動態調査は、美術館の性格付けのために必要な調査である。
2	既存施設との関係 ・本館の扱い（改修 or 解体） ・東山魁夷館との関係（分離 or 一体化）	○本館は管理棟、展示棟とも全面改築が望ましい。 ただし、ファサード部分の活用等については、建築家の意見を考慮する。 ○東山魁夷館は機能性や利便性の面から、新美術館と接続させることが望ましい。	・本館の耐震診断は平成7年調査では問題なかったが、20年経過しており劣化が懸念される。 ・展示棟は、国宝・重文展示可能な基準を満たすことは難しい。 ・ファサード部分のみ残す考え方もある。しかし、新美術館のプランに支障をきたすのであれば、建築史的な観点だけで保存を考えるのは難しい。 ・東山魁夷館とは、共有スペースで接続するなど、作品やスタッフの移動等がより機能的で安全な空間づくりが望ましい。
3	施設の配置 ・公園内のトータルデザイン ・建物、駐車場、回遊路等の配置 ・展示室、収蔵庫、ショップ等の配置	○新美術館の配置可能エリアは、別紙2のとおり。 ○善光寺東庭園と一体となった公園を回遊するような動線を設けることが望ましい。（別紙1） ○施設の配置や公園との一体化について、建築家の意見を入れることが必要。	・善光寺から見て美術館が分からない現状は問題。 ・善光寺から見渡せる芝生の中に噴水があり、その先に美術館があるイメージ。
4	施設の規模 ・展示室、収蔵庫等の構造 ・展示室、収蔵庫等望ましい規模	○新美術館の延床面積は、めざす姿に相応しい機能充実を前提に、10,000㎡～12,000㎡の範囲で検討することが望ましい。 ○新美術館の個別施設の面積案（別紙3）については、今後、建築設計を進める中で必要な調整を行うべき。	・多目的ルームなど使いまわしが利くようにする。 ・展示室以外を展示室仕様とすると広いスペースが確保できるが、講堂やワークショップルーム・アトリエは専用で使えることが望ましい。 ・企画展示ごとの作業スペースが必要。 ・ワークショップ・アトリエやリサーチセンターはある程度の広さが必要。
5	レストラン、ショップ等 ・望ましい方向性・規模、運営形態	○レストランは、美術品保全の観点から美術館の中には造らず、公園の魅力向上のための施設として、整備方法等について県と長野市で協議することが望ましい。 ○カフェは、新美術館、東山魁夷館併せて1箇所に設置することが望ましい。 ○ショップは新美術館、東山魁夷館それぞれに設置することが望ましい。	・文化庁の文化財公開施設の計画に関する指針を守ること。 ・カフェはほしい。 ・全国的にショップは苦戦。ネットショップもあるため、よほど面白いものがないと難しい。 ・アートの情報を知りたい若者が、まず信濃美術館のショップに訪れる、そんなムードが生まれるとよい。 ・ショップ、飲食部門は、どの段階で運営者を決めて、どれだけ意見を反映できるかを検討したほうがよい。
6	事業者選定方法 ・プロポーザル、コンペ等 ・デザインビルドやPFIの可能性	○概ねプロポーザルを念頭に置きつつも、選定方法のそれぞれのメリット・デメリットの整理や他県の事例の調査研究を進める。 ○事業者選定の際は、長野の気候風土に十分配慮するよう条件付けすることが必要。	・発注者の意向を細部まで設計に反映してくれるような、よい設計者を選ぶことが大切。 ・コンペは選定案が設計を拘束するため、施工段階で支障をきたす危険性がある。